

● 日本脳炎ワクチン 接種勧奨を中断も患者数に変化なし

日本脳炎の患者数は、1992年以降、10人未満。1991～2005年の15年間で、重症例4例をふくむ13例のADEM（急性散在性脳脊髄炎）が認定されました。さらに重症例1例がADEMとして認定され、新しいワクチンの開発が遅れたこともあって、5年間「接種の積極的勧奨の差し控え」となり、希望者のみの接種となりました。日本脳炎の患者数は図表ivのとおり。「差し控え」をしていた2005～09年のあいだも患者数は増えていません。

古いワクチンがあと何年もつかといわれているときに、審議会を傍聴に行きました。そうすると、ある委員が「もうすぐ新しいワクチンができるから、あわてていまのワクチンを打たなくていいって孫の親にはいった」って発言をしているんですね。そんなふうに自分の孫に打たないものを、在庫処理でみんなに打っていくっていうのはおかしいですよ。

またそのときに、別の委員から「副作用のないワクチンなんてないんだから、1人や2人、ADEMが出たからといって、マスコミは騒がないでほしい」という発言がありました。ADEMは、後遺症が残る方は少ないにしても重症です。ですがそれ以降、実際に報道がされなくなりました。

新しい組織培養ワクチンは、それ以前のワクチンより多くの重症な副反応報告が出ています。再開後のADEMの報告数は、図表vのとおりです。

	患者数
※2005	7
※2006	7(1)
※2007	10
※2008	3
※2009	3(2)
2010	4(1)
2011	9(2)
2012	2
2013	9
2014	2
2015	2
2016	11

14歳以下の患者数が明らかになっている年は()内に記載。
 ※は「接種勧奨差し控え」の時期

図表 iv 日本脳炎の患者数

(国立感染症研究所

[<https://www.niid.go.jp/niid/images/vaccine/freport/20161023/vac-zennsuu2016.pdf>、

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/surveillance/2410-iasr/related-articles/related-articles-450/7465-450r05.html>より作成)

	ADEM報告数
2009～10	1
2011～12	12
2013.4～2017.2※	13

※この期間、ADEMのほか、脳炎・脳症(9例)、アナフィラキシー(22例)、けいれん(47例)、血小板減少性紫斑病(18例)なども報告されている。

図表 v 新・組織培養ワクチンで再開後の ADEM の報告数
 (「予防接種後(疑い)副反応報告」より)

(青野典子)

©Aono Noriko 2017